



大樹のこころ

印象深い1年間

今日で令和5年度も終わり。子供たちに、各学年の教育課程を修了した証となる修了証を渡しました（通知表が修了証を兼ねています。裏面の修了証に角印が押してあります）。全ての子供が無事に1年間の学びを終えたことになり、自分もホッとしています。

さて、この令和5年度は印象深いものとなりました。4月に「今年は多忙になりそう」と思っていたのですが、振り返ってみれば、良き1年となりました。どうしても触れなければならないのが大河ドラマ「どうする家康」です。大樹寺小は家康公ゆかりのお寺と耳にしていましたが、これほど注目を浴びるとは思ってもいませんでした。まさに「家康バブル」。この1年を通して自分自身、家康公への造詣を深めていくことになりました。次に印象に残っていることは、開校150周年に関わる一連のイベントです。「150プロジェクト」と称して、全学年が150周年を祝う作品作りに取り組みました。この活動が学校を華やかにしていきました。記念式典では和太鼓部が和太鼓衆 SHIN さんとのコラボを行い、素晴らしい演奏を披露してくれました。式典の最後に和太鼓部・SHINさん・教職員とで行った演奏は忘れ難いものとなりました。バルーンリリースも子供たちの夢が大空へ飛んで行ったかのような美しい光景でした。中校舎改築に伴う引っ越し作業も、欠かすことのできない出来事です。教員人生で初めての職員室・校長室の引っ越しを経験することに。まさに大作業となりました。しかし、これも考え方一つです。引っ越しをきっかけに断捨離が進みました。

このようなことが思い出として残っていますが、それ以上に自分の心をとらえたのが、「子供たちの成長」でした。引っ越しによって生活環境が変わり、子供たちの落ち着きがなくなるかもしれないと心配していました。しかし、まったくの杞憂でした。新しい環境にすぐに適応する子供たちを見て、たくましさを感じました。トイレのスリッパの整頓や挨拶も当たり前のようにできるようになりました。また授業において素晴らしい姿が見られました。友達の発言に対して、体を向けてうなずきながら聴く姿と、その姿に応えるように自分の思いを述べる姿です。どの学級でも子供たちが主体となって学びを深めていくことが日常的になってきました。令和5年度は、授業場面における子供たちの成長が顕著な1年だったと思っています。そして授業の充実が、より良い学校づくりにつながることを実感した1年でもありました。

さあ、4月からは新しいクラス・新しい担任の先生のもとで、新たなスタートとなります。令和5年度以上の成長が見られる1年としていくつもりです。1年間、本当にありがとうございました。

